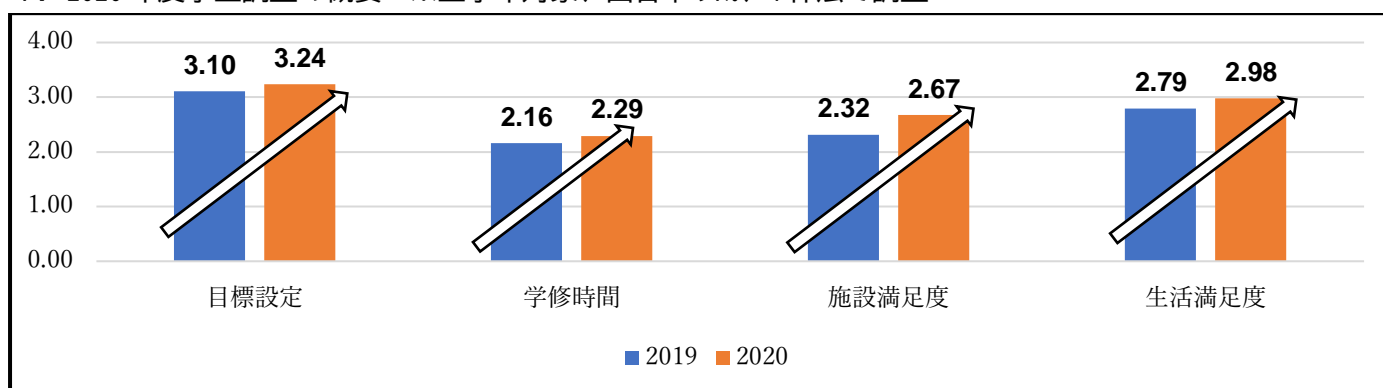


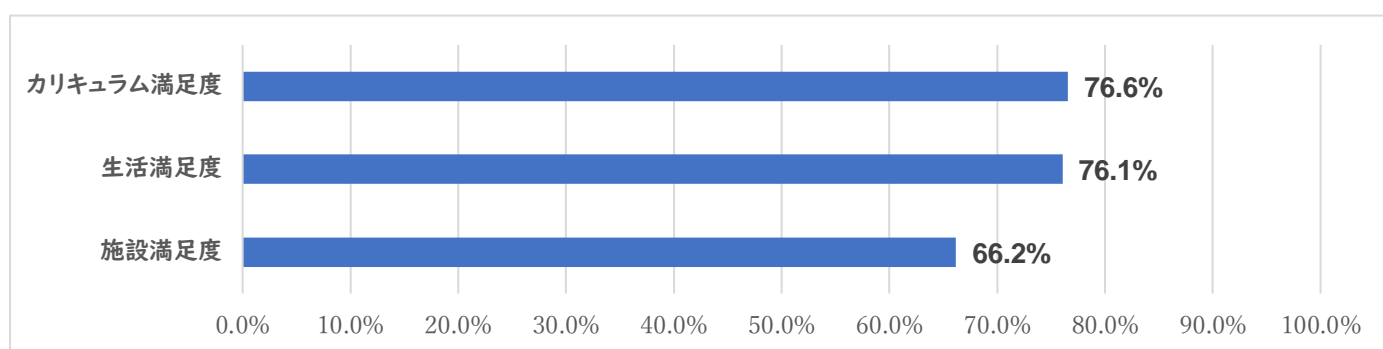
2020年度学生調査の概要

1. 2020年度学生調査の概要 ※全学年対象、回答率97%、4件法で調査



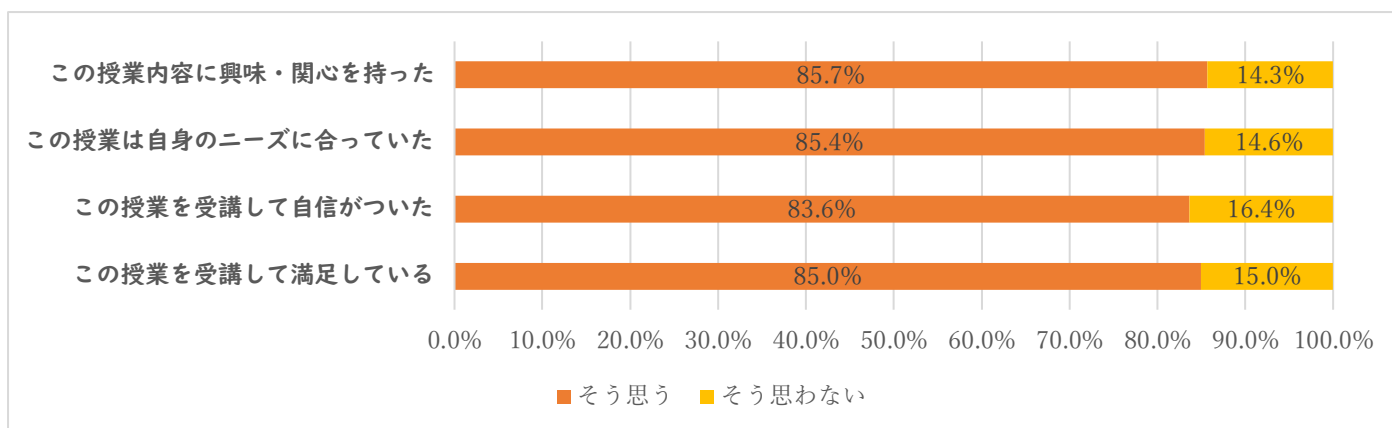
- 2020年度は、新しい生活様式や自粛等、大きな変化を迫られる年でしたが、チームIPUとして活動を行った結果、IPU生には、ポジティブな変化が認められました。要因としては、授業のハイブリッド化に成功したこと、教育実習や就職活動への支援をオンラインとオフラインを併用して強化したこと、非認知能力を開発するための新校舎（ディスカバリー）、トップアスリートやトップトレーナーを育成するための施設（インスパイア）の活用を促進したこと、オンライン申請システムの整備などが考えられます。今後は、目標設定だけでなく、施設満足度と生活満足度においても、平均値3.0を超えることができるよう、創意工夫を重ねていきたいと考えています。
- 『学修時間』の増加の要因としては、課題量が増えたためではなく、授業中の学びを深めるための「事前課題」が機能したためと考えています。日本人大学生の1日当たりの平均学習時間（授業時間を除く）は45分程度と言われていますが、調査の結果、IPU生の1日平均学習時間は80分程度となりました。今後は、ICT活用やブレンド型授業設計の推進を通して、量から質への転換を図りたいと考えています。

2. 卒業生調査の概要 ※2020年度3月卒業予定者対象、回答率、95%、4件法で調査



- 今春卒業した4年生に関しては、教育課程（カリキュラム）と学生生活について、全体の3/4以上の学生が4年間の学修や生活に納得してくれていることがわかりました。施設満足度が低くなった要因としては、コロナ禍による使用の制約に加え、新校舎の活用頻度が少なかったことが考えられます。今後は、それぞれの項目で80%を超えることができるよう、学生個々の声にしっかり耳を傾けていきたいと考えています。

3. 後期授業評価アンケートの概要 ※全学年対象、回答率 91%、4 件法で調査



- 上記のデータの「そう思う」には「強くそう思う」と「ややそう思う」が、「そう思わない」には「あまり思わない」と「まったく思わない」が含まれています。『興味・関心』、『受講ニーズ』、『自信』、『受講満足』の4点において、85%程度のIPU生が納得してくれていることが分かりました。コロナ禍での授業運営として、2020年度前期はフルオンライン、2020年後期は対面とオンデマンドの組み合わせで対応してきましたが、2021年度以降は、授業のブレンド化を推し進め、対面とオンラインを柔軟に切り替えるとともに、時と場所を越えて繋がるスキル（シームレス・ラーニング）の習得を促したいと考えています。

最後に

今回の学生調査では、教職員による支援のおかげで、ほぼすべての在籍生の声を集約することができました。学生にお声がけ頂いたみなさんはもちろんのこと、積極的に回答して下さったすべての学生さんに対し、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。